

# 平成29年度 学校評価結果

学校法人 高松学園  
幼保連携型認定こども園 慈光幼稚園

一昨年度から「子ども・子育て支援新制度」のもと、0歳児から5歳児までの教育・保育を行う「幼保連携型認定こども園 慈光幼稚園」となりました。

幼保連携型認定こども園は、子どもたちが友達と遊ぶ、みんなで考える、一緒にお話を聞く、チームをつくって運動をするなど、家庭ではできないことを体験し、学ぶところです。子ども達はお互いをモデルとし、あこがれたり、いたわったりしながら豊かな心と身体が育まれていきます。乳幼児期は、生涯にわたる人格形成の基礎が培われる大切な時期です。当園では、園児の一日の連続性及びリズムの多様性に配慮するとともに、保護者の生活形態を反映した園児の在園時間の長短、入園時期や登園日数の違いを踏まえ、園と家庭とが信頼し合って、かけがえのない子ども達の育ちのための環境をつくっていきたいと考えています。

## 1. 教育及び保育の精神

本園は、認定こども園法及び子ども・子育て支援法（平成24年法律第65号）、児童福祉法（昭和22年法律第164号）に基づいて、義務教育及びその後の教育の基礎を培うものとしての教育並びに保育を一体的に行い、子どもの健やかな成長が図れるよう適当な環境を与えてその情操陶冶を行い宗教的萌芽を啓培し、以ってその心身の発達を助長するとともに、保護者に対する子育て支援をすることを目的とし、次に示す事項を重視して教育及び保育を行う。

- (1) 仏教精神を根底においた、ともに育つ保育を行う。
- (2) のびやかに自己を発揮する保育を大切にする。
- (3) 子どもが自ら環境にかかわってつくりだす遊びを保育の中心におく。
- (4) 教育・保育に関する専門性を生かした保護者及び地域等への子育て支援を行う。

## 2. 教育及び保育の目標

本園は、乳幼児期における教育及び保育が、生涯にわたる人間形成の基礎、生きる力の基礎を培うものであることを踏まえ、一人ひとりの子どもが、感謝の念を持ち、生きる喜びを感得できるよう、認定こども園法第9条に示された次に掲げる目標の達成に努める。

- 1 健康、安全で幸福な生活のために必要な基本的な習慣を養い、身体諸機能の調和的発達を図ること。
- 2 集団生活を通じて、喜んでこれに参加する態度を養うとともに家族や身近な人への信頼感を深め、自主、自律及び協同の精神並びに規範意識の芽生えを養うこと。
- 3 身近な社会生活、生命及び自然に対する興味を養い、それらに対する正しい理解と態度及び思考力の芽生えを養うこと。
- 4 日常の会話や、絵本、童話等に親しむことを通じて、言葉の使い方を正しく導くとともに、相手の話を理解しようとする態度を養うこと。

- 5 音楽、身体による表現、造形等に親しむことを通じて、豊かな感性と表現力の芽生えを養うこと。
- 6 快適な生活環境の実現及び子どもと保育教諭その他の職員との信頼関係の構築を通じて、心身の健康の確保及び増進を図ること。

### 3. 重点目標

- I, 子どもが遊ぶ中で、自分なりに遊びへの思いをもち、発見したり、試行したり、想像力を発揮したり、友達と協力したりし、発達に必要な体験や学習を重ねていく姿を大切にすること。
- II, 屋外活動を充実させ、園内の自然環境を生かすとともに、地域の自然、伝統文化などを日々の保育に取り入れていく。
- III, 保護者と保育教諭等が互いに連携し、協働の精神を持って子ども達の教育・保育を行うようにする。

### 4. 自己評価項目の達成及び取り組状況

分野	評価項目	評価	取り組状況
園の管理	教育および保育の目標の周知	A	<p>今年度は園の方針が明確化された運営規定を保護者に配布するとともに、園の目標の下、どのように生活や活動が展開されているのか具体的に伝わるように、昨年度に引き続きクラス便りを工夫した。今後も機会を逃さず伝える努力を行っていききたい。</p> <p>今年度は職員の中から、非常勤職員への周知が不十分ではないかという指摘があった。毎日の保育を行う中では、どのように保育を進めていくか（計画）、どのようなことを反省・評価として次に生かしていくか（評価）ということを繰り返し行い、保育の質を高めていく努力はされているが、園の目指すその根本へ戻り見かえすことが不足していたのではないかと感じる。今後はその点について改善していききたい。</p>
	危機管理体制の整備	B	<p>防災計画にそった避難訓練などの実施や安全教育の実践に取り組む、園児の安全に対する感覚の育成に努めている。</p> <p>今年度は危機管理体制について、特に外部からの不審者の侵入対策について、園舎入口の施錠、園庭で子どもたちが遊ぶ時間帯の管理等行い、安全管理に努めた。まだ徹底されていない面があるので、職員は危機意識を持ち務めるようにする。</p> <p>保護者アンケートの中で、降園時の駐車場（園庭）について危険な状況があることが指摘された。実際に事故も起こっており対応が急がれる。駐車時のルール作りを行うとともに、市営駐車場等の利用の協力依頼を保護者にも行っていききたい。</p>

教育活動	家庭、地域、関係機関への情報発信	A	<p>今年度も、保護者ボランティアの力をお借りし、多くの園外保育の機会を持つことができ、地域の文化財、自然などをよりよく教育資源として活用していくことができた。今後も地域において様々な体験ができるよう努力していきたい。</p> <p>今年も、例年行っている花まつり、七夕、講演会、作品展、成道会、もちつき、人形劇を見る会などの地域の方の行事ご参加も定着し、園児との交流を持ちながら行事を楽しんでいただくことができた。また、童唱まつりや公民館活動に参加し地域の行事を楽しんだり地域の老人とかかわることもでき貴重な体験となった。今後も地域の活動へ参加していきたい。</p>
	子育て支援	A	<p>今年度は、希望者対象にプール参観を実施した。今後も自由に保護者が参加できる機会を模索していきたい。</p> <p>今年度より地域に向けた一時預かり保育の実施し、利用者は毎月延べ2人～3人である。今後もできる範囲で地域の家庭への子育て支援に努めていきたい。</p>
	教育課程・指導計画の共通理解	A	<p>今年度は職員から、指導計画等の見直しが不十分ではないかという指摘があった。実際には月ごとに保育実践を振り返り、反省・評価を行う中で、指導計画だけでなく教育課程の見直しにも及ぶ内容を抽出しているが、年間的な計画の中に見直しの話合いの機会を位置付けていない。来年度は定期的に会議を行っていくよう計画したい。また、多くの職員が共通理解の下に保育を行っていくためにも、非常勤職員の参加も促していきたい。</p>
	発達段階に即した適切な乳幼児理解・援助	A	<p>職員の中より「自由に遊ぶ時間の見直し」を求める意見があった。園児一人一人が自分のやりたい遊びにじっくりと取り組むための環境構成・援助を見直すことを、年齢を問わず今後行っていきたい。また、未満児保育を始めて今年で10年目となる。未満児保育の在り方の見直しも行っていきたい。</p>
	小学校との円滑な連携	B	<p>今年度は園内研究において「小学校への接続」をテーマに、飯田市校長会主導委員会・幼保小連携推進委員会作成の「幼保小連携接続カリキュラム」及び幼保連携型認定こども園教育・保育要領を読み合わせ及び保育研究等を行い、小学校との円滑な連携に対する理解を深めてきた。しかし、小学校の保育参観・懇談会へ参加した報告や研修会に参加した報告が十分ではなく、全教職員にまでは情報が伝わらないことが多い。今後報告を充実させることに努めていきたい。</p>

	職員の資質向上	<p>A</p> <p>常勤の教職員については、園内研究（研修）および園外の研修会参加を年間を通して計画的に行った。特に園内研修では、小学校との接続、手遊び、ダンス、保育研究、防犯研修、救命訓練と様々な分野で行うことができた。しかし、今年度実施を検討した短時間の非常勤職員の園内研修、外部の研修会への参加が実現しなかった。来年度は機会を設けるよう努めたい。</p>
--	---------	--

### 5, 自己評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

評価	理由
A	<p>今年度は研究テーマ「園児一人一人が遊びに対して『もっとこうしてみたい』という思いを持ち、やりたいことにじっくりと取り組み、工夫をしながら遊ぶために、保育者はどのような環境構成や援助を行うべきか」の下に保育研究を行った。その中で、じっくりと遊びに取り組むとはどのような姿か、遊びが広がるとはどのようなことが等を捉えるとともに、発達に即した環境構成や援助の在り方を学ぶことができ、保育教諭一人一人が自分の保育を振り返り見直すことができた。今後も日常の中でしっかりと学びを生かしていきたい。（重点目標Ⅰ）</p> <p>毎年年長はサツマイモの栽培を行い、植物の成長の不思議さや楽しみ、収穫の喜びや調理することを体験するが、今年度は他の学年も野菜などの栽培や収穫を行った。これらの体験を通し、植物への関心、食への関心が高まったことを感じている。また、未満児は戸外遊びを日課とし、四季を通して園内や地域の自然に親しむことができた。今後も自然体験の充実に努めていきたい。今年度からこども森づくり推進ネットワークの「子どもの森づくり運動」へ参加し、年長がどんぐりをポットに植え、春に発芽を待っているところである。年中が育て、年少が年長になった時に植えるという継続的な活動となる見込みである。（重点目標Ⅱ）</p> <p>保護者や保育教諭等が互いに連携する努力を各自行った。その中で、昨年に引き続き職員間の情報共有が課題となった。情報を記したホワイトボード、メールの活用など、方法をさらに工夫していきたい。（重点目標Ⅲ）</p>

### 6, 今後取り組むべき課題（すでに実施し始めていることを含む）

課題	具体的な取り組み方法
安全対策	<p>降園時の駐車場への車の乗り入れ、駐車、発進、園児の自家用車への乗り込みの際に危険が大きい。降園時のルールを明確に打ち出し、保護者の理解を求めるとともに、より危険の多い4時降園時については、安全な降園の方法を検討する。</p>
参観等について	<p>参観の回数について、保護者アンケートにおいて今年度は「少ない」「多い」と両方の意見があった。各家庭の状況もあることから、園行事に希望者が参加できる機会を計画する。※「成道会」等</p>

その他	祖父母参観の1人以上参加の希望がある。保育室に入る方を1人し、人数は問わないこととする。
-----	--

#### 7、学校関係者評価委員の評価

学校関係者評価委員からは「大きく指摘するべき事項はなく、おおむね良好な運営がされ、妥当と認められる」と評価された。また、下記について助言をいただいた。

昨年も指摘したが、未満児保育の充実に伴い短時間勤務の職員も増加した。園全体の情報が確実に全職員間に伝達されるよう工夫する、ティーム保育においては保育計画や反省評価の共有に努め、十分に連携していくことが大切である。また、研修などにも常勤・非常勤を問わずに参加していくことが望ましい。

#### 8、財政状況

公認会計士監査により、適正に運営されていると認められている。

#### ※4、5の評価基準

A	達成されている
B	概ね達成されている
C	取り組まれているが、成果が十分でない
D	取組が不十分である